

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・入居者一人ひとりの尊厳と願いを大切にし、博愛と奉仕と協調の精神をもって、住み慣れた地域での、その人らしい暮らしの継続を支援していく。 ・地域における高齢者福祉の増進と、地域に開かれ地域で支え合うまちづくりに貢献していく。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念は、玄関・事務所に掲示し、日々意識するようにしている。 ・職員採用時には、理念を必ず伝え、ミーティング時にもふれるようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・ご家族には、入居時に説明させて頂き、面会時などにも折にふれお話しさせて頂いている。また、活動状況は、毎月「花木水便り」として配布している。 ・地域の方には、運営推進会議を通して理解を求めている。また、広報の配布も行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・日常的に散歩に出かけ、出会った方にはあいさつ等を積極的に行うように努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の作業所が行っている出張喫茶を利用し、顔なじみの関係作りを行っている。 ・去年は、近くの特養の夏祭りに参加させて頂き、交流を深めた。 ・トライやるウィークの受入を行い、中学生との交流も出来た。	○ ・今後も地域行事や活動に積極的に参加し、交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・入居を検討している方の相談を受けたり、人材育成の一環として実習生の受け入れは行っているが、地域に向けての取り組みは出来ていない。	○	・地域研修等に参加し、認知症ケアの介護予防等に取り組みたい。 ・どのようなことが出来るか、職員とも話し合っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価及び外部評価の意義については、職員は理解している。	○	・今後、受けた外部評価結果をふまえ、話し合い、改善すべき点は具体案の検討を行い、実践していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・報告・連絡を行っている。その上で、意見交換を行い、現状を把握して頂くとともにこちらの要望を伝えている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・運営上の疑問点や他施設の対応方々等、市町村との意見交換により、サービスの質の向上に努めている。 ・広報の配布等を行い、活動状況を把握して頂くようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・成年後見制度を現在活用している利用者があるものの、十分な理解はできていない。	○	・勉強会を開催したり研修会に参加し、制度の理解と今後の対応に役立つよう、資質の向上を図っていききたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・新人研修時に勉強して頂いている。	○	・ユニット会議の時など、定期的な勉強会の実施、研修会への参加を行っていききたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・ゆっくりと時間をとり、一方的にならず相手の立場を考え、疑問・不安になりそうな事を出来るだけ引き出し、ご納得・安心頂けるよう説明することに努めている。 ・医療連携体制について詳しく説明し、重度化や看取りについても同意を頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・普段から利用者と積極的にコミュニケーションを図り、意見・不満等を把握するように心がけている。出された要望や意見はきちんと受けとめ、ユニット会議などで話し合い、日々のケアに生かせるよう取り組んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・毎月「花水木便り」をご家族に郵送している。 ・個々に合わせて、面会時または電話やFAX等でも随時連絡をとっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族とのコミュニケーションも積極的に行い、意見の言いやすい環境作りに努めている。	○ ・ご家族同士が集まり、意見交換・交流を深める機会をもっと作っていくとともに、様々なご意見ご要望を頂き、運営に反映させていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月1回全体会議を開き、意見交換を行って、運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・利用者の生活のペースを第一に、勤務時間を起床時・就寝時・入浴時・食事時を考慮し設定している。必要に応じて勤務の調整も行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	<p>・個々の職員がスキルアップ出来るように、自己研修・ホーム内外の研修へ積極的に参加させていくと共に、職員の資質向上を図っていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	<p>・職員が向上心を持って働けるよう、職能評価を中心とした人事・人材制度を整備していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・事前面接の際に、これまでの生活歴・大切にしている事や不安に感じていることなどをお話しして頂き、出来るだけ多くの情報を集め、ご本人が平安で希望に添った生活が出来る環境作りに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・面接の際、心配なことや希望などをお話して頂き、当ホームの様子やどのような対応が出来るかをお話しするように努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時に、利用者及びご家族の希望や状況を確認し、可能な限り柔軟に対応を行い、他のサービスで改善できるのであれば提案し、選択して頂くよう対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ホーム内で行っている音楽療法に参加して頂いたり、見学に来てホームの雰囲気を感じて頂いたりしている。また、職員が家庭を訪問したりして、安心して頂けるように努めている。 ・体験入居サービスも行っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者をより深く理解し、そのままを受け入れ寄り添い、平安で安心した暮らしのサポートを行っていくことが私たちの使命であるということ、職員教育に組み込み、家族の一員として、また人生の先輩として接することを心がけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	・利用者の希望や思い、またご家族の要望を受け止めながら、報告や相談を細かく行い、一緒に利用者を支えるための協力関係を築いている。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・よりよい関係を継続して頂けるよう、行事への参加の呼びかけや、面会時には楽しい時間を過ごして頂ける環境作りを行っている。また、利用者のご家族に宛てた絵手紙なども送っている。	○	・ご家族が遠方に住まわれている方も多く、行事参加等の機会が少ないので、利用者のご家族の交流を図る機会を増やしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・日々の会話の中などで、昔の思い出話を引き出したり、行きつけの美容院などへ行ってもらったり、地域に暮らす馴染みの知人や友人に気楽に訪問してもらうなど、つながりを継続できるよう支援している。	○	・ご本人が望まれていることを日々引き出し、個々に希望されているところへの外出や、馴染みの人間関係をさらに深められるように支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・気の合う利用者同士の関係を把握し、ゆっくり過ごせる環境作りを行っている。中には、気の合わない利用者同士でもめることもある。	○	・継続して、楽しく過ごして頂ける時間作りや、共にゆっくり過ごせる環境作りを行いながら、利用者同士の関係がうまくいくように見守り・声かけの力をつけていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・現在は、項目にある出来事はない。	○	・今後、入院されたり自宅に戻られる事があっても、お見舞いや自宅訪問を行ったり、行事への声かけを行いたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々のケアの中で、思いや意向を把握できるように努めている。	○ ・継続してコミュニケーションの中で意向を引き出しながら、出来る限り希望されている生活実現を行っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前の面談時に自宅を訪問し、ご本人やご家族から今までの生活歴等を細かく聞き、基本情報としておこし、職員と共有しながら把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・日々の生活を観察し、職員が把握できるように努めている。変化があれば、ユニット会議でその都度相談し、対応している。	○ ・継続して把握に努め、個々の出来る事柄を考え、共に行えるよう努めていきたい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・利用者やご家族の希望を第一に、日々の様子など課題となることをユニット会議で意見交換しながら作成している。	○ ・引き続き、必要関係者をまじえて話し合い、利用者がより良く生活できるような介護計画の作成に努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・見直し評価を実施し、変化が生じた場合はご家族に相談したり、ユニット会議などで検討し対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・その日の状態や気付いた事などを個別ファイルに記録している。また、特に必要な事に関しては職員ノートに書きこみ、申し送り時や毎日の業務開始前に全ての職員が確認できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・状況変化に伴い、通院や送迎等必要な場合には柔軟に対応している。 ・要望に応じて買い物や外出の支援等、個々の満足度を高められるよう努力している。	○	・今後、地域住民の要望に応じて、ショートステイやデイサービスの利用ができるように、グループホームの多機能性を強化したい。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・運営推進会議に参加して頂いたり、行事に来て頂いたり地域との協力体制は整っている。 ・社協へはボランティアの要請をはじめたところであり、実現はできていない。警察や消防等との協力関係もまだ不十分である。	○	・社協からのボランティアには、定期訪問をお願いしていく。警察・消防等には広報などを配布し、現状の報告を行いながら立ち寄ってもらえるような関係作りに努めたい。
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・地域事業所のケアマネとは、地域ケア会議や随時話し合う機会をもっている。 ・他のサービス事業者とも連絡を取り合いながら、車椅子利用者が通院・付き添いサービスを利用できるように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターの職員とは、随時必要に応じて連絡・相談が行える関係であり、情報交換・協力体制を築くよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者やご家族が希望するかかりつけ医に定期的にまた状況に合わせて、随時受診・往診している。大きな変化がある場合は、ご家族にも同行してもらい診療結果を聞いてもらっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・受診時、または電話などでも認知症に関する相談を行えるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・看護職員を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。また、看護職員がいない時でも、24時間気軽に相談できる体制を作っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・現在までに入院したケースはないが、そうした場合に備え、定期的に連絡や相談を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・終末期に対する対応方針・看取り介護については、入居時に説明を行い、同意を頂いている。	○	・状態変化があるごとにご本人やご家族と話し合い、その意向を大切にしながら終末期の支援につなげていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・身体状況の変化に伴い、ご家族に対応可能な事・対応できない事をお伝えし、話し合いをしている。	○	・ご本人やご家族の意向を大切にしながら、今後の変化に備えて医療機関との連携を密にし、職員の知識向上にも取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・現在退居されたケースはないが、入居される際には情報収集と情報交換、連絡を密にして、ご本人の希望に添ったケアが実施できるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者一人ひとりの誇りやプライバシー、生きてこられた時代背景に配慮した対応や言葉かけができるよう、職員の意識向上を図っている。	○	・今後、定期的な勉強会を行う等、職員の意識向上に向けて事業所全体で取り組んでいく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・日々の生活の様々な場面において、利用者が意思表示し、自己決定できるような声かけを行い、一人ひとりが納得しながら希望に添った生活ができるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事や入浴、起床等において、一人ひとりのペースに合った生活ができるよう支援している。また、突然の外出希望等にも、できる限り対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・毎日自分で選んだ服を着て頂けるように、見守り・声かけを行っている。理美容は本人の希望に合わせ、馴染みの店がある方はその店へ行き、馴染みのない方については、送迎つき美容室を利用しながら希望に合わせたカットをおこなってもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・好みのメニューを取り入れながら献立を作っている。また、調理・盛りつけ・片づけ等も利用者の状況に合わせて一緒に行うように努めている。また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで一緒に食事を楽しめる雰囲気作りを大切にしている。	○	・継続して声かけ・見守りを行いながら、一人ひとりの好みや力を活かせるよう努めたい。
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・それぞれの利用者の嗜好を把握し、お酒はお祝いや行事等の際に飲めるよう配慮している。また、コーヒーや紅茶などは希望に応じて出している。煙草は、ホーム内禁煙のため、庭にベンチ・灰皿を設置し、職員が管理する体制をとっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表や利用者の日々の動き等を観察し、声かけや誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・毎週日曜日は消毒の日にあて、週6日間入浴を実施している。できる限り希望に添って入浴して頂いている。順番などに関しては、当日利用者同士で話し合っ決めて決めることもある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・居室以外にリビングや畳の上等で心地よい休息がとれるよう配慮している。 ・個々の生活リズムに合わせて、お昼寝をして頂いたり、そのための声かけを行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・野菜切り、調理、味見、盛りつけ、庭の水やり、盆栽の手入れ、床の掃除、台ふきなど、利用者が得意な事やできる事を行ってもらっている。 ・また、生け花・ピアノ・裁縫・カラオケなど、今までの生活の中で楽しみとされていた事は、継続して行って頂けるよう支援している。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・能力に応じて小遣い程度のお金を持ち、買い物時や薬代など自分で支払いをしたり、また、職員が管理して支払い時に手渡したりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日はその日の希望に応じ、個別または数人で散歩に出かけている。 ・買い物や外出等も、希望されたときに対応するようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・行ってみたい所など希望を聞き、全員でバス外出等行っている。個人で希望される場所に関しては、ご家族に連絡したり呼びかけをして、一緒に外出して頂いている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族や友人へ自由に電話できるよう支援している。手紙などの要望があった場合もすぐに対応している。手紙の投函などの要望があった場合も、ポストまで一緒に散歩するなどして対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会の時は、いつでも来訪して頂けるようにしている。笑顔であいさつし、ご家族が自分の家に戻ってきたような、気軽にゆっくり過ごせる雰囲気作りを努めている。また、希望に応じて一緒に食事をしたり、泊まって頂いたりもしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員が、身体拘束によって生じる身体的・精神的弊害を理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。	○	・継続して拘束のないケアに取り組みながら、日々のケアの中での自覚しにくい拘束・言葉による拘束などについても話し合い、注意していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・職員一人ひとりが見守りを行い、鍵をかけない開放的な環境作りをしている。利用者が一人で外出しそうな時には安全面に配慮しつつ同行し、状態を見ながら納得の上、ホームに戻るなど自由な暮らしの支援をしている。		
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・個々のリスクを把握し、職員は利用者と同じフロアの全体が見える位置で記録や作業を行っている。また、夜間はフローア・廊下の見通せる位置で利用者が起きて来られたとき等にすぐ対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・利用者に保管できる物は保管して頂き、リスクがあるものは、ご本人に説明しお預かりしている。使用する際は、見守りながら使用して頂く。夜間は包丁類は缶の中に入れ、保管するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・個々の状態から予測される危険については随時検討し、事故を未然に防げるよう見守り等の支援をしている。また、ヒヤリハットや事故報告書を記録し、今後の予防対策をその都度検討するようにしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時の対応・連絡マニュアルは整備し、全職員に周知徹底させている。 ・看護師より、随時ホーム内研修をしてもらっている。	○	・消防署による応急手当の講習や定期的な勉強会を行い、職員の知識・技術向上に取り組みたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防署員指導による防火・避難訓練を実施している。また、地域住民と密に話し合い緊急時に協力して頂ける態勢を作っている。	○	・継続して消防署とも連絡をとり、定期的に(年2回)避難訓練を実施していく。また、地域住民とのコミュニケーションをしっかりと図っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・状況に応じてご家族に説明・相談しながら、自由な暮らしに向けた取り組みに努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・バイタルチェックを行い、普段の状態を把握した上で、食欲・顔色・動作に様子の変化がみられたときは、看護師の指示を仰いでいる。必要な時は、病院受診・往診してもらっている。		
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個々に処方されている薬に関しては、薬ファイルに綴じていき、職員全員がいつでも確認できるようになっている。また、変更があった場合は職員ノートに記入し、申し送り時等に確認している。		
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・出来るだけ自然排便して頂けるように食事には食物繊維の多い物を、おやつには寒天ゼリーなどを作り摂取して頂けるようにしている。また、散歩などにも声かけをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・利用者に合わせて声かけ・一部介助等の支援を行っている。義歯の方は、夜間洗浄液につけている。必要に応じて歯科受診・往診してもらっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事や水分の摂取状況を毎日ケアチェック表に記録し、それぞれの状態を把握している。職員全員で情報を共有し、状況に合わせて食べ物・飲み物の支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	・可能性のある感染症のマニュアルを完備し、予防に向けて取り組みを実施している。情報収集を積極的に行い、感染予防・対応に努めている。インフルエンザに関しては、予防接種を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・衛生に関して取り決め（毎晩のまな板・布巾の漂白消毒、食器乾燥機の使用など）を行っている。食材の状態も仕入れの際に確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関先や玄関周り（庭などにも）沢山の花を設置、季節感を感じて頂けるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節にあった飾り付けをしたり、心地よい音楽を流したり、庭の花などを飾りゆっくり過ごせるように工夫している。 ・食事前にはおかずやご飯の炊ける匂いがして、家庭的な雰囲気が漂っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングではゆったりとした椅子で、また、畳の上では掘り炬燵で気の合う利用者同士、ゆっくり過ごして頂けるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・今まで使っていた馴染みの家具・写真などの思い出の品や、仏壇などの大切にされている物を置き、利用者本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・常温とあまり差が出ないよう配慮し、その日の気温に応じて調節している。換気も朝・夕を基本に適度に実施している。 ・居室も換気・エアコンを利用し、利用者に合わせて調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・床は衝撃をやわらげるフロアクッションを使用。生活空間の必要な場所には手すりを設置し、洗面台や蛇口の位置も使いやすいように工夫している。 ・見守り・必要な介助を中心に自立に向けて取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・生活の中で、一人ひとりがわかることわかりにくいことを確認しながら、混乱が起こらないよう工夫している。 ・各部屋のドアに名札や写真を飾ったり、お手洗いには目印をつけたりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・庭にベンチを置き、ひなたぼっこをしながらお茶を飲んだり、花や野菜（トマト・なす）の手入れや収穫などもできる環境をつくっている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者一人ひとりの尊厳と願いを大切に、平安に希望される生活が実現できるように努めている。
- ・開放的な環境のもと、自由にゆったりとした生活をして頂いている。
- ・音楽療法やUNOクラブを取り入れ、生活に潤いと張りを与えられるよう取り組んでいる。
- ・看護師を配置し、毎日の健康管理状況を職員全員がしっかりと把握できている。また、医療機関との連携を密に行っている。